



# 現場や地方を大事にする



参議院議員 安達きよし

## きよし便り

第5号



日本は法治国家。憲法や法律に基づくと国家運営を

皆さん、こんにちは。今年も新型コロナウイルスに翻弄されながら、もう

師走を迎えます。ワクチン接種が進み、感染状況は沈静化しつつありますが、皆さまにおかれましては、引き続き、マスク着用や手洗いなどの感染防止対策を徹底され、この冬もくれぐれもご自愛ください。

さて今秋、米プリンストン大上級研究員の真鍋淑郎さんがノーベル物理学賞を受賞されました。地球温暖化対策に世界各国が協力して取り組む中、気候予測メカニズムを研究開発された真鍋先生の受賞は、まさにタイムリーです。海を隔て、お隣の愛媛県ご出身です。本当におめでとうございます。

その真鍋先生が、記者会見で、若い研究者たちに向けて「はやりには走らず、好奇心に基づいた研究をしてほしい」とメッセージを送りました。受賞者の方々が発する言葉はいつも、社会や時代のあり

方への示唆に富み、含蓄があり、時に政治の世界にも通ずると、都度、私は感じます。「はやりには走らない」。本当に、その通りであり、「ものごとの本質を大事にする」ということでしょうか。

政治の本質は、平たく言えば、憲法や法律に基づいて、しっかりと国民の方を向いて仕事をすることです。しかし、政治の世界では、その本質が蔑ろにされる事態が散見されます。

最近では、飲食店に対する「酒類停止の働きかけ問題」があります。コロナ対策担当の西村康稔大臣(当時)は7月8日の記者会見で、客への酒類提供停止に際しない飲食店への強化策を発表しました。その内容は、金融機関に対して、融資先の飲食店に酒類提供停止に際するよう働きかけを要請したり、また、お酒の卸事業者には、酒類提供停止に際しない飲食店との取引をストップするよう要請したりするものでした。

実は、これらの要請には法的根拠がなく、憲法22条が保障する「営

業の自由」を制限しかねず、上からの圧力や脅し以外の何ものでもありません。

菅義偉総理大臣(当時)には事務方から事前に説明がありました。秘書官から報告を受けた麻生太郎財務大臣(当時)は「普通に考えれば、おかしい。ほっとけばいいと(秘書官に)言った」と、記者会見で述べました。まるで他人事です。

この要請は、業界や野党のみならず身内の与党からも猛反発を受け、あわてて政府は撤回しました。政府の無責任かつ強権ぶりが露わになった、本当にお粗末な話です。

ところで、昨年2月に突然要請

